

生涯学習センター及び文化情報センター 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】生涯学習センター・文化情報センター

【指定管理者名】株式会社アステム

【評価対象年度】令和 2 年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課

業務内容についての評価

令和 2 年度は、本市の生涯学習活動拠点としての施設運営業務に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の危機（以下「コロナ禍」という。）への対応に追われる 1 年となりました。

コロナ禍で思うような事業が実施できない中、生涯学習センター及び文化情報センターでは、いち早く動画配信事業に取り組むことができました。人権講演会『テレジンを語りつぐ会 野村路子さん』に聞く「テレジン収容所の子どもたちと彼らの人権を守ろうとした大人たちの話』では、講師と会場とをオンラインで結んで講演会を開催し、新たに開設した YouTube チャンネルでは、コロナ禍であっても市民の生涯学習活動を停滞させないよう、だいとう人財問屋登録者の紹介動画や、アマチュアミュージシャンライブフェスの無観客撮影と配信を行うことができました。また、市内の感染状況の縮短期には、コンサートなどの対面型の事業を実施できましたが、演者の前に大型アクリルパネルを設置するなど感染防止対策を徹底して実施されていました。

施設の維持管理では、臨時休館となってしまった期間を利用して、指定管理者からの提案により特に文化情報センターを中心に修繕が実施されました。ホール内の足元照明の LED 化や客席の修繕をはじめ、当課で行った公衆無線 LAN（フリー Wi-Fi）の設置にあわせて、自主事業の収益を還元した LAN 工事を実施するなど、施設の利用環境を向上させる細やかな配慮がなされています。

コロナ禍という状況の中、市民が安心して施設を利用できるよう、基本的な感染防止対策の徹底はもとより、当課とも協議を重ねながら、業種別ガイドラインに基づいた対応を検討し、諸室の定員数については単純に半数にするのではなく、ガイドラインに基づいた定員数や利用方法を設定することができました。また、府内の感染状況の拡大により実施には至りませんでしたが、国の「来年 2 月末までの催物の開催制限、イベント等における感染拡大防止ガイドライン遵守徹底に向けた取組強化等について」に基づいて、施設利用者がイベント等を実施する際のガイドラインを作成するなど、利用制限の中であっても常に利用者の目線に立ちながら、市民の“まなび”を止めない施設運営に取り組んでいることを高く評価しています。

利用者満足度について評価

利用者アンケートでは、利用者数の減少や市民サークルの活動自粛によって少ない回答数ではありましたが、8割近い利用者が「満足」「やや満足」と回答されています。

新型コロナウイルスへの対応が日々変化する中、令和2年度も施設の利用制限や臨時休館に伴う施設予約のキャンセルなどが発生し、利用者にもご負担やご協力をお願いしなければならない状況でした。そのような中でも、利用者アンケートで「不満」と答えた方が一人もおられないのは、利用者をはじめとした市民の皆さんへの分かりやすい説明と、丁寧な対応を実践されていることに対しての評価であると感じています。

収支状況について評価

市が総経費を厳しく査定し、かつ、指定管理者が自らのノウハウと強みを活かして再積算した指定管理料の範囲内で、より一層の経費の節減は極めて難しい課題であると思われます。当課では、利用者サービスの質の低下や負担感が伴うような必要以上の経費削減を行うことなく、指定管理料の範囲内の創意工夫により、業務仕様書以上のパフォーマンスを上げることを希望しています。

令和2年度の収支状況は、コロナ禍という状況の中で非常に厳しいものとなりました。施設利用の予約の取消しにより、指定管理者が被った不利益については、市の政策決定により利用料金の減収に係る補填が行われましたが、令和2年度に実施された令和元年度分に係る補填料を除くと、これまで以上の経費節減を行った状況であっても、事業収入の減収もあいまって収支状況は赤字となっていました。

令和3年度も新型コロナウイルスの影響が続きます。引き続き互いに緊密な連携を取りながら、厳しい状況ではありますが、持続性をもった施設運営が行えることを期待します。

総合評価

前年度の内部評価では、動画配信をはじめとするオンラインサービスの活用と新型コロナウイルス感染症拡大防止のための安全対策の徹底をお願いしました。生涯学習センター及び文化情報センターの運営にあっては、ここまで内部評価結果で述べたとおり、期待以上の実績と高い効果を感じることができました。コロナ禍であっても、市民の生涯学習活動、文化活動の普及振興を図ることを目的として設置された施設であるという基本理念のもと、丁寧な施設運営がなされていることが伺えました。その背景には、“まなびをとめない”、“アクロス（生涯学習センター）でめばえ、つながり、地域でそだつ市民や活動をなくさない”、というスタッフ一人ひとりの強い想いを感じることができました。

令和3年度も、引き続き情報収集を行いながら、新しい生活様式に則ったこれまでにない事業展開や市民の生涯学習活動のサポートを期待しています。